

# NS-PAC<sup>®</sup>鋼管杭 NS-PAC<sup>®</sup>鋼管矢板

日本製鉄の  
ウレタン重防食鋼管杭・鋼管矢板

東京本社	〒100-8071 東京都千代田区丸の内二丁目6番1号 丸の内パークビルディング	Tel: 03-6867-4111 (代)
大阪支社	〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友ビル	Tel: 06-6220-5111 (代)
北海道支店	〒060-0002 北海道札幌市中央区北二条西4丁目 北海道ビル8階	Tel: 011-222-8260 (代)
東北支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町3-6-1 一番町平和ビル10階	Tel: 022-227-2661 (代)
新潟支店	〒950-0087 新潟県新潟市中央区東大通1-3-10 大樹生命新潟ビル	Tel: 025-246-3111 (代)
名古屋支店	〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南2-13-18 NSビル8階	Tel: 052-856-2351 (代)
中国支店	〒730-0017 広島県広島市中区鉄砲町10-12 広島鉄砲町ビルディング14階	Tel: 082-225-5212 (代)
九州支店	〒812-8522 福岡県福岡市博多区店屋町5-18 博多NSビル3階	Tel: 092-273-7001 (代)

〈ご注意とお願い〉本資料に記載された技術情報は、製品の代表的な特性や性能を説明するものであり、「規格」の規定事項として明記したものを除き、保証を意味するものではありません。本資料に記載されている情報の誤った使用または不適切な使用等によって生じた損害につきましては責任を負いかねますので、ご了承ください。また、これらの情報は、今後予告なしに変更される場合がありますので、最新の情報については、担当部署にお問い合わせください。本資料に記載された内容の無断転載や複製はご遠慮ください。本資料に記載された製品または役務の名称は、当社および当社の関連会社の商標または登録商標、或いは、当社および当社の関連会社が使用を許諾された第三者の商標または登録商標です。その他の製品または役務の名称は、それぞれ保有者の商標または登録商標です。

# NS-PAC<sup>®</sup>鋼管杭・NS-PAC<sup>®</sup>鋼管矢板について

鋼管杭は、大水深域や軟弱地盤に優れた機能を有することから、棧橋・岸壁・護岸・防波堤・橋脚基礎・土留めなどに幅広く使用されています。

一方、港湾・海洋構造物は海水に接し、潮位の変動や波しぶきを受けるという環境下にあることから、施設を適切に維持管理し、長期にわたり有効に活用していくためには、鋼材の腐食を抑止することが必要となります。

日本製鉄では、鋼管杭・鋼管矢板に、工場でウレタンエラストマーを被覆して防食機能を付与した重防食鋼管杭・鋼管矢板製品として「NS-PAC<sup>®</sup>鋼管杭」「NS-PAC<sup>®</sup>鋼管矢板」を販売しています。

## ① 特長

### ●優れた防食性

耐塩水性、耐薬品性、耐候性の優れた有機高分子化合物 — ウレタンエラストマー — を使用しており、強力な接着力によって被覆されているため、長期にわたる耐久性を有します。NS-PAC<sup>®</sup>鋼管杭・NS-PAC<sup>®</sup>鋼管矢板は、(財)沿岸技術研究センター発行の「港湾鋼構造物防食・補修マニュアル」の中に重防食被覆の一つとして取り上げられている製品です\*。

### ●安定した品質

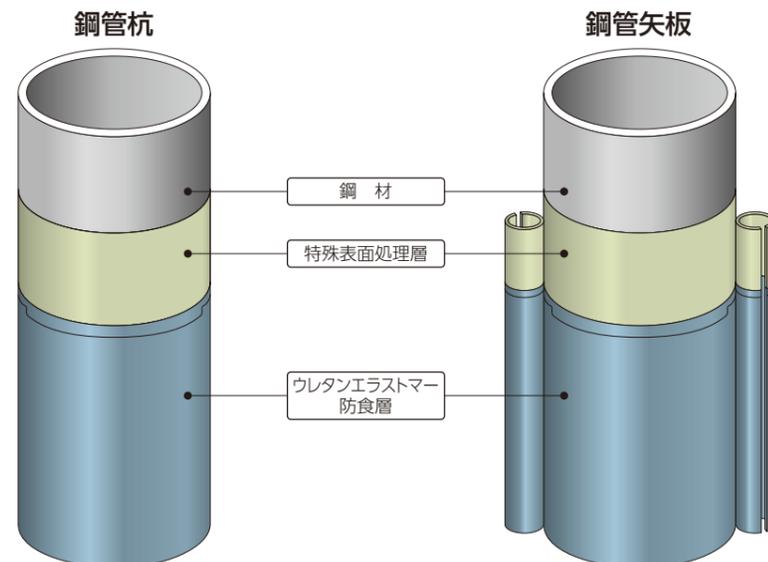
厳しい品質管理のもと工場生産していますので、安定した品質が得られます。

### ●現場での施工が容易

塗装品のため、直接ワイヤロープを巻きつけたり、ほかの鋼材に激しくぶつけることのないよう注意が必要ですが、一般的には無塗装の鋼材と同様の方法で施工することができます。

※重防食鋼管杭・鋼管矢板および重防食鋼矢板は、設置後定期的な維持管理が必要とされています。また、港湾内で使用されることを前提としており、使用する環境によっても防食効果や耐久性は影響を受けます。それらの詳細につきましては、同マニュアルをご参照ください。なお、マニュアルに記載の期待耐用年数等は、製品の耐用期間を保証する値ではありません。

## ② 被覆構成



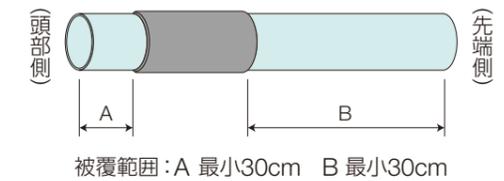
## ③ 被覆の範囲

### ●製造範囲

鋼管矢板径	素管長	単重	被覆長
φ400~φ1800	3~34.5M	max. 22.7t	max. 28.2M

注1：上記を超えるものおよび鋼管矢板継手部の塗装は相談させていただきます。  
注2：鋼管矢板径の数値は、継手を含むものとします。

### ●長手方向の鋼管杭



### ●鋼管矢板継手付近の被覆範囲

L-T形	P-P形	P-T形
<p>* は20mmを標準とする。 (注) 被覆の標準厚さ：2.5mm <sup>+規定しない</sup> <sub>-0</sub> 被覆はするが厚さの規定をしない。</p>		

## ④ 性状

当社では、(社)鋼管杭・鋼矢板技術協会発行の製品仕様書(「重防食鋼管杭・鋼管矢板製品仕様書」、「重防食鋼管矢板製品仕様書」)に記載の性状を、出荷時において満足する製品を提供しております。

### ●ウレタンエラストマーの性状

項目	試験条件	数値*1
比重	JIS K 6911	1.0以上
引張強さ	JIS K 7161	8.0 MPa以上
引張破壊ひずみまたは引張破壊時呼びひずみ	JIS K 7161	30%以上
硬さ	JIS K 7215	HDD 50以上
吸水率	JIS K 7209	0.35%以下
体積抵抗率	JIS K 6911	1.0×10 <sup>12</sup> Ω・cm以上

## ⑤ 施工

重防食鋼管杭・鋼管矢板は塗装品のため、塗膜面に直接ワイヤロープを巻きつけたり、ほかの鋼材に激しくぶつけることのないよう注意が必要です。また、油圧圧入工法などで打設時に被覆面を把持する必要がある場合には、被覆面と把持装置の間に当て板を施すなど、塗膜面を傷つけないよう注意する必要があります。施工にあたっての注意事項については、(社)鋼管杭・鋼矢板技術協会発行の「重防食鋼管杭・重防食鋼管矢板施工の手引き」に詳しい内容が記載されていますので、これらを参考に十分に注意して施工してください。